

(様式第1号)

平成 29 年 月 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : リハビリテーションに関する領域

科 目 名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識

単 位 数 : 1 単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人三重県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 514-0003

三重県津市桜橋 2-131 三重県社会福祉会館 2 階

電話 : 059-264-7741

FAX : 059-264-7742

E-mail : mie\_kaifuku@ybb.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (一社) 三重県介護福祉士会 印

申請責任者 : 大田 京子

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 29 年 月 日
申請団体名	一般社団法人 三重県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 大田 京子
申請責任者職名	認定介護福祉士養成研修担当
申請責任者氏名	森 聖志
団体住所	〒514-0003 三重県津市桜橋 2-131
同 Tel・Fax	Tel : (059)-(264)-(7741)
メールアドレス	Fax : (059)-(264)-(7742) E-mail:mie_kaifuku@ybb.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識 (1 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハ職種と連携しつつ生活を支援することができる力を育成する。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念とICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハの視点を持つ事ができる。</li> <li>・関節・骨格筋・神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つ事ができる。</li> <li>・病的な状態であっても、可能な動作を考え、適切な支援することが実践できる。</li> <li>・心理的な知識・技術（人間関係・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つ事ができ、QOLの向上を図ることができる。</li> <li>・リハ職種との連携・協働を行いために必要な視点や知識を習得し、地域・施設で連携・協働ができる。</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの理念</li> <li>○心身の評価とアプローチ</li> <li>○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係</li> <li>○運動学的視点を生活支援に活かす考え方</li> <li>○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点</li> <li>○心理的な理解を生活支援に活かす考え方</li> <li>○リハ職種との連携・共同を行う為に必要な視点と知識</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○（5時間） （講義） ・リハビリテーションの理念 ・人間関係論 ・発達と老化 ・社会発達論 傾聴・アサーション・リハ職との連携</li> <li>○（12時間） （演習） ・演習</li> <li>・事例 心身の評価を行い、リハビリテーションの視点を生かし、リハ職と協働した支援の方法を検討する。（グループワーク）</li> <li>○事後課題（3時間）</li> </ul>
研修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■集合研修</li> <li>■課題学習</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。</li> <li>○評価は担当講師が行う。</li> </ul>	
研修時間	20時間（集合研修 17時間、課題学習 3時間）	

<p>修了要件</p>	<p>○原則として全課程の出席を要する。やむ得ない事情による遅刻、早退については30分を上限として認める。30分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題により代替することを可能とする。</p> <p>○事後課題はA～Dの4段階評価とし、D評価の場合は再提出を求める。事後課題の提出が期限内に行われなかった場合、修了を認めない。</p> <p>○欠席の場合は修了を認めない。</p>
<p>講師要件（講師の選定基準）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある事</li> <li>・修士課程を修了している事</li> <li>・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・作業療法士等）、または、リハビリテーション科専門医（大学講師以上）が望ましい。</li> </ul>
<p>(2)受講者について</p>	
<p>受講対象 (受講要件)</p>	<p>(1)次のア～ウのいずれをも満たしていること。 ア介護福祉士資格取得後の実務経験5年以上（実務経験の考え方は介護福祉士国家試験の受験資格に準ずる） イ介護職員を対象とした現任研修の受講歴として、100時間以上の履歴を有していること。 ウ当会の課すレポート課題又は受講試験において一定水準の成績を修めていること。ただし、認定介護福祉士認証・認定機構の定める研修を修了している場合は免除する。</p> <p>(2)次のエ又はオを満たすことが望ましいこと。 エ介護職の小チーム（ユニット等、5～10名の介護職によるサービス提供チーム）のリーダー（ユニットリーダー、サービス提供責任者等）としての実務経験を有すること。 オ居宅、居住（施設）系サービス双方での生活支援の経験があること。</p>
<p>修了評価</p>	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計30分（遅刻、早退それぞれ15分）を上限として認める。（レポート課題なし）1日のプログラムのうち、始めの30分を超える遅刻、終わりの30分を超える早退であって120分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①出席状況が修了要件を満たしていること。</p> <p>②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。</p> <p>③実技試験について</p> <p>、</p> <p>④事後課題1600字程度（A4レポート1枚）にまとめる。</p> <p>この課題の評価がA～Cであること。D評価の場合は再提出を求め、</p>

	C以上の評価を得なければならない。
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名
開催場所（都道府県）	三重県社会福祉会館（三重県津市桜橋 2-131）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 29 年 12 月 10 日(日)
	② 平成 30 年 1 月 21 日(日)
	③
開催場所 (会場)	① 三重県社会福祉会館 (三重県津市)
	② ユマニテク医療福祉大学校
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	○関西福祉科学大学保健医療学部 リハビリテーション学科作業療法士学専攻助教 塩津 裕康氏
	経歴等は同上
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会(常勤:1名、非常勤:4名) 実行委員会事務局(担当事務局員、介護福祉士会事務兼務、常勤2名) 研修実行員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸 規程	三重県介護福祉士会の定款、生涯研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	
研修管理責任者氏名	会長 大田 京子
機構問合先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
機構問合先担当者氏名	森 聖志
機構問合先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742

機構問合せ先 e-mailアドレス	<a href="mailto:mie_kaifuku@ybb.ne.jp">mie_kaifuku@ybb.ne.jp</a>
受講問合せ先部署	一般社団法人三重県介護福祉士会 事務局
受講問合せ先担当者氏名	森 聖志
受講問合せ先電話番号/FAX	059-264-7741 / 059-264-7742
受講問合せ先 e-mailアドレス	<a href="mailto:mie_kaifuku@ybb.ne.jp">mie_kaifuku@ybb.ne.jp</a>
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	三重県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙媒体及びデータによる台帳管理</li> <li>○データ保存期間は最低 10 年間とし、その後は、紙媒体で保管する。</li> <li>○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。</li> </ul>
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	大田京子（会長）
管理担当者氏名	長谷川千恵子（三重県介護福祉士会 事務局兼務）

別紙 1

認定介護福祉士養成研修時間割表

領域：リハビリテーションに関する領域

科目名：生活支援のためのリハビリテーションの知識

(1日目) 平成 29 年 12 月 10 日

区分	科目名	時間	内容
	受付	9：00～ 9：30	
1・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの理念</li> <li>○心身の評価とアプローチ</li> <li>○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係</li> </ul>	9：30～12：40 途中 10 分休憩	<b>(講義)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念</li> <li>・人間関係論</li> <li>・発達と老化</li> <li>・社会発達論</li> <li>傾聴・アサーション・リハ職との連携</li> </ul>
	休憩	12：40～13：40	
3・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リハビリテーションの理念</li> <li>○心身の評価とアプローチ</li> <li>○各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の相互関係</li> <li>○運動学的視点を生活支援に活かす考え方</li> <li>○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点</li> <li>○心理的な理解を生活支援に活かす考え方</li> <li>○リハ職種との連携・共同を行う為に必要な視点と知識</li> </ul>	13：40～17：20 途中 10 分休憩	<b>(講義)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーションの理念</li> <li>・人間関係論</li> <li>・発達と老化</li> <li>・社会発達論</li> <li>傾聴・アサーション・リハ職との連携</li> </ul> <b>(演習)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習</li> <li>・事例</li> </ul> 心身の評価を行い、リハビリテーションの視点を生かし、リハ職と協働した支援の方法を検討する。(グループワーク)



(2日目) 平成30年1月21日

区分	科目名	時間	内容
	受付	9:00～9:30	
1・2	○運動学的視点を生活支援に活かす考え方 ○生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点 ○心理的な理解を生活支援に活かす考え方 ○リハ職種との連携・共同を行う為に必要な視点と知識	9:30～12:40 途中10分休憩	<b>(演習)</b> ・演習 ・事例 心身の評価を行い、リハビリテーションの視点を生かし、リハ職と協働した支援の方法を検討する。(グループワーク)
	休憩	12:40～13:40	
3・4		13:40～17:20 途中10分休憩	

